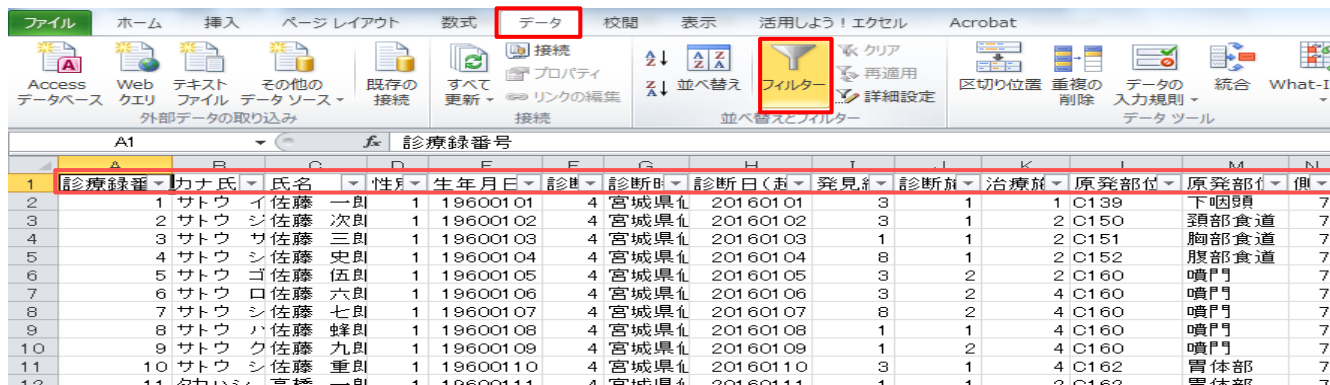


# CSV ファイルを使ったエラーチェックの方法 Microsoft Excel 2010

対象施設①…Hos-canR Lite 等のがん登録システムで登録している施設

対象施設②…Excel にごん登録データを入力し登録している施設 (以下の手順を Excel で行います)

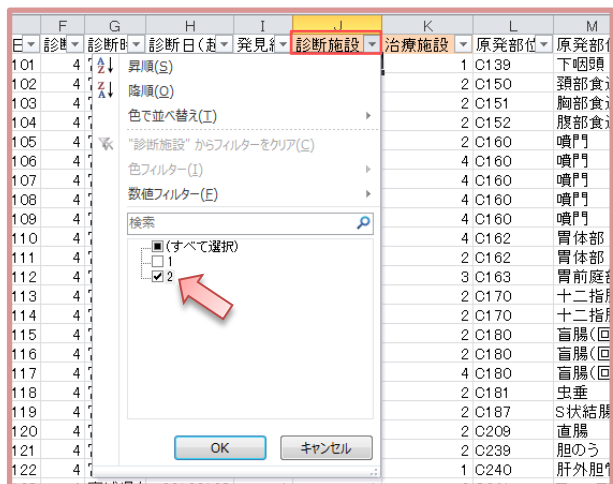
## 1. データタブから先頭行へフィルターをかけます。



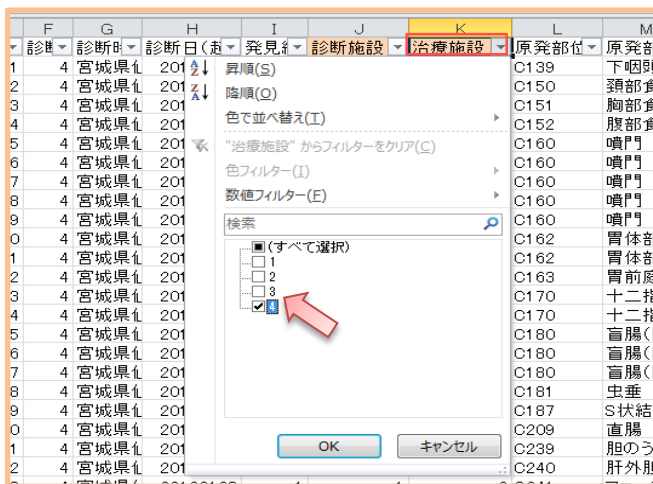
## 2. CSV チェックシート①、フィルター項目の項目名からコードを抽出します。

CSVチェックシート① (フィルターのためのチェック方法)					
フィルター項目		チェック項目		No. ※1	チェック
項目名	コード	項目名	選択可能コード		
診断施設	2	進展度・治療前	499 777 (C420,C421)	19	□
治療施設	4				

< 診断施設…2 を抽出 >



< 治療施設…4 を抽出 >



### 3. CSV チェックシート①、チェック項目のコードが選択可能コードと一致しているか確認します。

進展度・治療前…499 (C420,C421 の場合は 777 を選択)

### 4. コード一致の場合、チェックボックスに☑を記入し、次のチェック項目へ進みます。

コード不一致の場合、登録内容を確認し、データを修正します。

対象施設①…システムに入力されているデータを修正します。

対象施設②…作業シート上でデータを修正します。

※次のチェック項目へ進む場合は、戻るボタンやフィルターボタンで必ず条件をリセットしてから行って下さい。

### 5. 次に CSV チェックシート②のチェックを行います。

#### (1) 全項目のチェック

CSVチェックシート② (フィルターをかけて詳細検索を行うチェック方法)			
届出項目	確認内容	No. ※1	チェック
全項目	項目数は29項目になっているか?	1	<input type="checkbox"/>
	データ形式は全国がん登録届出マニュアル2016付録[5]「標準的な院内がん登録から全国がん登録への提出形式」に沿っているか?	2	<input type="checkbox"/>

「全国がん登録届出マニュアル 2016 (2017年改訂版)」を参照して確認します。

#### (2) 条件を抽出した項目のチェック

届出項目	確認方法	確認内容	No. ※1	チェック
診断時住所(詳細)	昇順で並べ替え	郡、町、大字、字、丁目の過不足や入力ミスはないか?	4	<input type="checkbox"/>
診断日(起算日)	昇順・降順で並べ替え	届出対象年以外の診断日が入力されていないか?	5	<input type="checkbox"/>
治療施設	8を抽出	カルテを再度確認! 治療施設1~4に分類できないか? ・死体解剖でがんと診断された ・セカンドオピニオン …を除く	18	<input type="checkbox"/>
病理診断・形態コード ※2	????0? ????1? で検索	病理診断・形態コードが届出対象外になっていないか?	8	<input type="checkbox"/>
病理診断・形態コード	????2? で検索	進展度・治療前に410~440、777が入力されていないか? 進展度・術後病理学的に410~440、777が入力されていないか?	10	<input type="checkbox"/>
病理診断・形態コード	????3? で検索	進展度・治療前に400が入力されていないか? 進展度・術後病理学的に400が入力されていないか?		<input type="checkbox"/>
死亡日	*99.*88で検索	死亡日が不明確な数字が入力されていないか? (院内がん登録を実施されている施設はご注意ください。)	5	<input type="checkbox"/>
死亡日・備考 以外の項目	空白を抽出	空白のある項目はないか?	3	<input type="checkbox"/>

確認方法で抽出した内容を確認します。

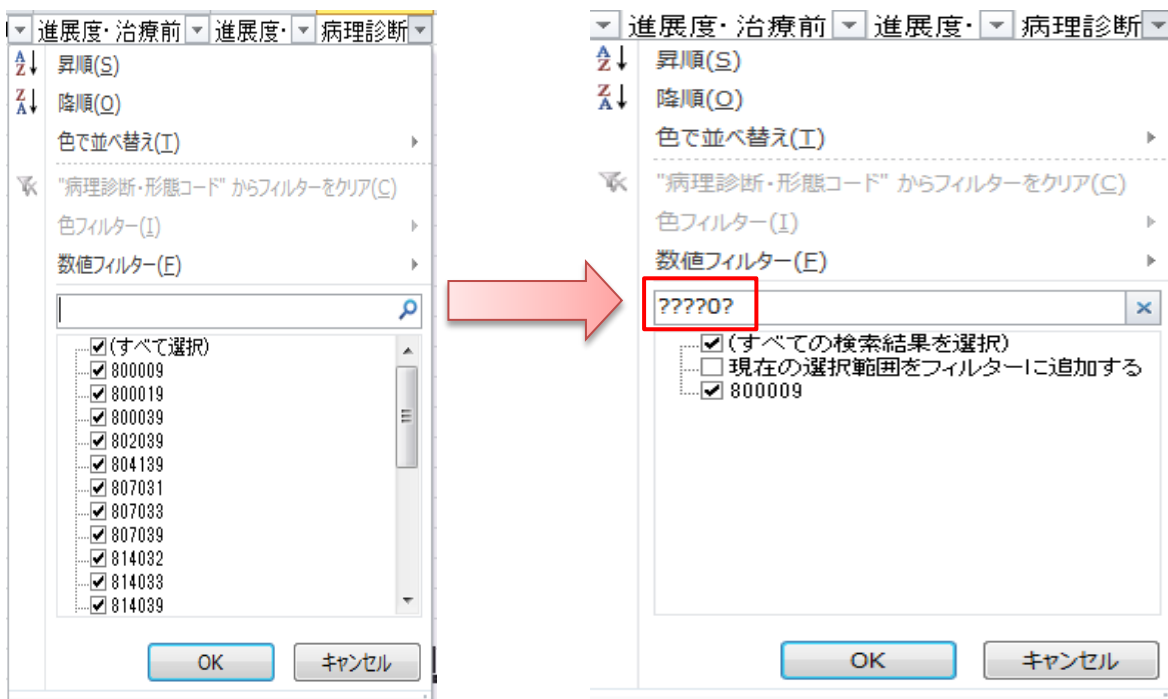
<例の前に…>

チェックシート②ではワイルドカードと言われる「?」や「\*」を使用したデータの検索方法を使用します。Excel でデータを検索するときに文字列の一部がわからなくても、半角の「?」と「\*」を使用すれば検索をかけることができます。

「?」とは、任意の1文字を表し、「\*」は任意の文字列を表します。

(2) 条件を抽出した項目のチェックの例 1 (病理診断・形態コード)

病理診断・形態コード ※2	????0? ????1? で検索	病理診断・形態コードが届出対象外になっていないか?	8	<input type="checkbox"/>
------------------	-------------------------	---------------------------	---	--------------------------



病理診断・形態コードの検索画面で「????0?」と入力し、病理診断・形態コードの5桁目が0の良性を抽出します。

基本的に病理診断・形態コードの5桁目が0(良性)、1(良性又は悪性の別不詳)は届出対象外ですが、例外として届出対象になる疾病がありますので、原発部位や病理診断の確認を行い、届出対象外であれば、登録データを削除します。

そして、「????1?」も同じ方法でチェックを行います。

**0 (良性) 及び 1 (良性又は悪性の別不詳) 届出対象疾患**

脳、脊髄、脳神経及び中枢神経に発生した腫瘍性疾患  
消化管間質腫瘍

**1 (良性又は悪性の別不詳) 届出対象疾患**

卵巣腫瘍 (一部)

届出対象疾患の詳細は全国がん登録届出マニュアル 2016 2ページをご参照ください。

(2) 条件を抽出した項目のチェックの例 2 (死亡日)

死亡日	*99,*88で検索	死亡日が不明確な数字が入力されていないか？ (院内がん登録を実施されている施設はご注意ください。)	5	<input type="checkbox"/>
-----	------------	--	---	--------------------------

項目件数が少なく、検索画面で \*99、\*88 がいない事が確認できれば検索せず OK!

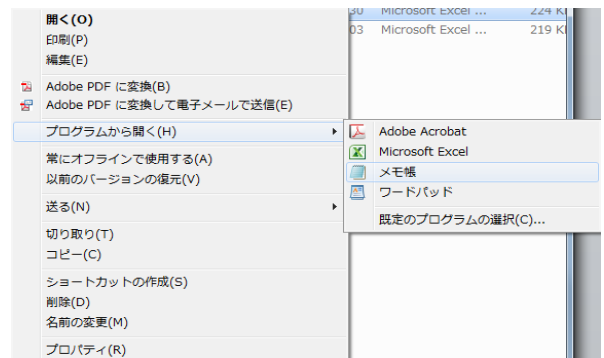
6.全チェック終了後、届出用 CSV ファイルを作成します。

対象施設①…再度、ご使用のシステムから届出用 CSV ファイルを出力します。

対象施設②…作業ファイルを上書き保存し、届出データ形式に沿った CSV ファイルを作成します。

作成手順は、今回の説明会で配布しました「全国がん登録 届出情報作成時の注意事項について 資料 4」をご参照下さい。

作成した CSV ファイルを開いて修正保存すると、ダブルクォーテーションが外れてしまいますので、注意が必要です。  
ダブルクォーテーションの有無を確認する場合は、CSV ファイル上で右クリック\_プログラムから開く\_メモ帳で確認できます。



以上で、CSV ファイルを使ったエラーチェックの方法は終了になります。